

外来生物からの被害を防ぐ

外来生物は、皆さんの身近なところでもたくさん見ることが出来ます。例えば、草原などで見かけるクローバー（シロツメクサ）も外国が起源です。外国が起源の生き物のすべてが悪影響を及ぼすわけではありません。中には自然の中に順応する生き物もありますが、悪影響を及ぼす生き物もあります。

ここでは、市内でも被害が確認ができる生き物を紹介し、現段階の駆除や防除についてお知らせします。

植物

ナガエツルノゲイトウ

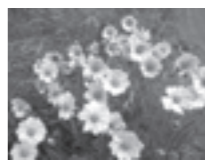
水辺の湿った環境に生える多年草で、茎の下部が水没することもあります。茎の長さは1m以上になります。水面をほうように成長し、数多く枝が分かれて発根します。日当たりの良い肥沃な条件下では、茎の切れ端からでも急激に増殖します。



▲ナガエツルノゲイトウ

オオキンケイギク

オオキンケイギクは、北アメリカ原産の植物であり、栽培されていたものが野生化しました。河川の土手などを中心に広がってきました。コスモスに似たオレンジ色の花が美しいので、移植されたり刈り残されたりしました。根はよく発達し、荒地でも生育するので、各地に広がっています。そのため、在来種のカワラナデシコなどの生育を阻害しています。



▲オオキンケイギク

多くの力が必要

昨年、薩摩町の神上沼で自治会やボランティアなどの協力を得てナガエツルノゲイトウの駆除作業が実施されました。

広範囲に渡って繁殖したナガエツルノゲイトウの人力による駆除作業は、大変過酷な作業となりました。しかし、全面的な駆除にはいたっ



ていません。また、今年度には、芹川河口付近でも繁殖が確認されました。このときは、早期に発見できたことと繁殖範囲が狭かったため、ボランティアの協力で全駆除に成功しました。写真は芹川での駆除作業の様子。

芹川で駆除作業をして

彦根市環境保全指導員連絡会議

会長
下田 篤生さん



今後、早期発見できるように、定例の水質調査に外来植物の観察を追加したいと思います。

動物

アライグマ

左の表は、アライグマ、ハクビシン、タヌキの顔、尻尾、指の特徴です。ここでは、国または滋賀県が指定している外来生物の一部を紹介いたします。

※タヌキは外来生物ではありません。比較のために掲載しています。

アライグマ(特定外来生物)

灰褐色の体毛をもち、目の周りからほおにかけて黒い丸みを帯びた模様があります。長いフサフサとした尻尾には黒い横じまがあります。夜行性で大きさはタヌキくらいです。木登りや泳ぎが得意で、雑食性です。

ハクビシン

近年、県内でアライグマの生息や繁殖が確認され、農作物や家屋侵入などの被害が出ており、生態系への被害も懸念されています。

ハクビシン(滋賀県で定める条例での指定外来種)

体は黄褐色で、顔に白い縦筋があり、名前の由来になっています。夜行性で大きさはタヌキくらいですが、尻尾が長く木登りも得意です。雑食性で主にミカンやカキなどの果実や、昆虫、は虫類などの小動物も食べます。

また、農作物被害や家屋侵入による糞尿の被害をもたらしている動物です。市内でも目撃情報はありますが、タヌキと見間違えられる場合が多いようです。

責任を持って飼育

野生化した外来生物の多くはペットとして飼育されていたものが逃げ出したり、飼育が困難となり野外へ放たれたりしたものです。ペットは最後まで責任をもって飼育するようにお願いします。

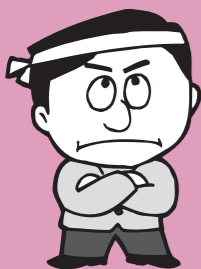
駆除および防除

本来、野生鳥獣については保護されるべきものであり、原則的に捕獲することはできません。

しかしながら、有害鳥獣に対して防除の取り組みをされているにもかかわらず、農作物や生活環境への被害が著しい場合には、一定の条件をつけて捕獲駆除を行うことができます。

野生鳥獣(卵を含む)の捕獲や採取については、滋賀県の許可(一部の有害鳥獣については彦根市の許可)が必要です。

家庭菜園や家屋などへの侵入については、被害を受けないように管理者責任により防除をお願いします。



駆除および防除

植物の駆除は、大変難しいです。刈り取ったとしても根が残っていれば翌年にも生える可能性が非常に高いからです。

また、種子をつける時期に刈り取ると、運搬する際に種子がこぼれて生息域を拡大する恐れもあります。

ナガエツルノゲイトウのように、繁殖が極めて旺盛なものは、刈り取った際に少量の茎の切れ端が残っているだけで、繁殖する可能性があります。

また、水辺に生える植物であるため、茎の切れ端が琵琶湖へ流れ出ることで、生息域を拡大する恐れがあります。

オオキンケイギクについては現在、滋賀県が適切な駆除方法について調査・実験中です。

すでに野外に生息する外来生物については、ほかの地域に拡げないよう注意しましょう。